

日本の民間伝説～很久很久以前～

－ 辉夜姫（竹取物語） －

很久很久以前，有个地方住着一位老爷爷和一位老奶奶。有一天，老爷爷到竹林里去砍竹。看见一根竹子上发出光亮，砍下来一看，竹筒中冒出一个长约3寸（约9厘米）非常可爱的小女孩儿。于是老爷爷把孩子带回家去抚养。

小女孩儿长大成人，成了一个美丽的姑娘。给她取名叫“辉夜姬”，其美貌在村中流传开来。不久有五个贵族男子来访，都表示想娶辉夜姬。老爷爷说：“我年纪已经大了，所以会在你们中选一个人和辉夜姬结婚，这样我就放心了”。于是辉夜姬对五人说“谁能将我要的宝贝取来我就嫁给谁”，但是都是些从来没有听到过的东西，5人中谁也没有拿来。

在这期间，皇帝也耳闻了关于辉夜姬的美貌评说。皇帝无论如何也要与辉夜姬相见，于是造访了老爷爷和老奶奶家。但是辉夜姬说：“即使是皇帝也不想见”不肯露面。但越是这样皇帝就更想见辉夜姬了，于是偷偷到房间去看她，一见后，辉夜姬的美貌果然盖世无双。

无论如何也想和辉夜姬结婚的皇帝总是给她写信。但辉夜姬一直没有答应。就这样三年过去了，辉夜姬开始每晚都对着月亮哭泣。老爷爷问她为什么哭泣，辉夜姬说：“其实我是月亮上来的人，到下次满月，从月亮上来的使者将会来迎接我，我非回去不可，所以才哭泣”。老爷爷和老奶奶闻言非常震惊，悲伤不已。皇帝闻听到这一消息，心想岂能让其回去?!于是派出军队准备赶走满月之日来接辉夜姬的使者。但是无法战胜天上来的使者，辉夜姬与老爷爷和老奶奶悲伤地道别，给皇帝留下离别礼物“不死之药”，回归月宫去了。

皇帝却表示：“而今辉夜姬已去，安用不死之灵药”，将不死之药在最高的山上烧掉了。从此这座山就被称为“不死山，即富士山（不死与富士发音类似）”。



にほんむかしばなし 日本の昔話～むかし、むかし～

－ かぐや姫（竹取物語） －

昔々、ある所にお爺さんとお婆さんが住んでいました。ある日、お爺さんは竹を切りに竹林に入りました。すると1本の光り輝く竹があり、切ってみると、中から3寸（約9センチ）程のとても可愛らしい女の子が出てきました。お爺さんはその子を家で育てることにしました。

女の子は成長し、美しい娘になりました。「かぐや姫」と名付けられたその娘の美しさは、村中に知れ渡るほどでした。やがて、娘に貴族の男達が5人も訪ね、皆結婚を申し込んできました。「わしも年老いているので、誰か1人を選んで結婚し、安心させておくれ」とお爺さん。そこで娘は5人に「私の頼む宝物を持ってきた方と結婚する」と言いますが、どれも聞いたことのない物で、誰1人持ってくるのができませんでした。

その内、美しい娘の評判が皇帝の耳にも入りました。皇帝はかぐや姫にどうしても会いたいとお爺さんとお婆さんの元を訪ねてきました。しかし娘は「皇帝であっても会いたくない」と姿を出しません。皇帝は益々会いたくなって、こっそり部屋を盗み見たところ、娘は本当にこの世のものとは思えぬほど美しいのでした。

かぐや姫どうしても結婚したいと皇帝は何度も手紙を書くなどしました。しかし娘は承知せず、とうとう3年が過ぎた頃、毎晩月を見ながら泣くようになりました。お爺さんがどうして泣くのか尋ねると、娘は「実は私は月からやってきた者です。次の満月に月からやってくる使者と帰らなければいけないので、泣いているのです」と言います。お爺さんもお婆さんも驚き、悲しみました。またそれを知った皇帝は、帰らせるものと満月の日に使者を追い払う軍を出しました。しかし、天からの使者を負かすことはできず、かぐや姫はお爺さんとお婆さんとの別れを悲しみながら、また皇帝には別れの品にと「不死の薬」を渡して、月へと昇っていきました。

皇帝は「かぐや姫が去った今、不死の薬など不要」と一番高い山でその薬を焼きました。それからその山は「ふじ（不死）の山（富士山のこと）」と呼ばれるようになったとき。

〈日本語できるかなの答え〉①B②C③A④D